

巻 頭 言

日本医科大学麻酔科学教室
小 川 龍

第13巻1号体液・代謝管理研究会誌では、第12回本研究会で発表された講演を論文に
していただき、それらを掲載した。輸液に関する研究はやや低調に思えるが、多く
の学会をみると少なからず輸液に関する研究がある。これらの研究が本研究会会員
の目にふれるよう、招待講演として発表をお願いした。また第12回研究会より一般
演題も募った。招待講演、一般演題の中から2編（木村氏、肥田氏）を論文として
本研究会誌に投稿をしていただいた。

さらに原著論文の投稿を募り、数編の論文が掲載された。投稿論文はどれも読
みごたえのある内容であった。小堀氏の論文は血液希釈に関するもので、粘り強い
研究の結果である。禿氏の研究は遺伝子組み換え方で製造したアルブミンの研究で
興味深い内容である。

また、第12回研究会では特別（会長）講演として、術中輸液、救急医療での輸液、
集中治療での輸液を取り上げた。これらは外科系での輸液療法の根幹をなすもので
ある。シンポジウムは2題で周術期輸液のトピックス（司会：後藤幸生、奥秋晟）
と血管透過性の機序（司会：前川剛志、窪田達也）であり、それぞれの方面の研究
者のユニークな発想を聞くことができた。

第13回総会も引き続き興味深い内容が盛り込まれており期待している。